

伏見城跡発掘調査報道発表資料

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
2021年11月4日

所在地:京都市伏見区桃山町鍋島、立売他
調査期間:2021年8月17日～2021年11月30日(予定)
調査面積:約400㎡

1. 遺跡の概要

今回の調査は、桃山駅前広場等整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査です。調査地は、伏見城跡に当たります。伏見城は、豊臣秀吉によって築かれた城で、大きくは2時期に分かれます。文禄元年(1592)に秀吉の隠居屋敷として築かれはじめ、その後、本格的な城郭として整備された指月伏見城期と、この城が文禄5年(1596)の大地震で倒壊した後、木幡山に再建された木幡山伏見城期です。木幡山伏見城は、慶長5年(1600)の関ヶ原合戦の前哨戦で焼失した後、徳川家康によって再整備され、3代将軍家光の時代に廃城となりました。

2. 調査の成果

(1)木幡山伏見城期

南北方向の道路と側溝(溝28)、道路と屋敷地を分ける石垣(石垣30)、道路に開く門を検出しました。
石垣30 調査区西端で見つかった南北方向の石垣で、西に面を揃えています。検出長は約18m、残存高は約0.4mあります。基底石(根石)を除き、大半の石材が抜き取られていました。抜き取り埋土からは、浅野家の家紋が入った軒丸瓦をはじめ、多量の瓦や土器類、弾丸等が出土しました。
溝28 調査区西端で見つかった石垣30に平行する南北方向の溝です。検出長は約15m、幅約1.2m、深さは0.5～1mあります。南が深く、北から南に水が流れていたようです。複数回の掘り直した跡が確認できました。
門 調査区南西部で見つかった西側に開く門で、石列25・85、三和土80、集石24・75、礎石83・84で構成されます。南に面を揃える石列25と北と東に面を揃える石列85は門の脇の区画石列、集石24・75は門柱の礎石を据える礎石据え付け穴と考えられ、その間が通路の三和土80となっています。門の間口は、約2.4mと推測されます。また、1段下がった石垣30の犬走上に据えられた礎石83・84は、溝28をまたいで屋敷地と道路を渡す橋の橋脚礎石、もしくは、門の造り替えに伴う、一段階古い門柱の礎石の可能性が考えられます。

(2)指月伏見城期

東西方向の石垣基底石据え付けのための溝2条(石垣基礎10・35)、通路を検出しました。
石垣基礎10 調査区北半部で見つかった石垣の基底石(根石)を据え付けるための東西方向の溝です。検出長は約18m、幅約1.5m、深さは約0.7mあります。地面を溝状に掘り込み、基底石を据えて裏側に礫を充填し、表側を土で埋める工法が採用されています。基底石は、東側の一部を除き抜き取られていましたが、残存する石から、南に面を揃える石垣の基礎部分と考えられます。基底石を抜き取った後は、礫と瓦を含む土で丁寧に埋められていました。この中から、金箔瓦が12点出土しています。

石垣基礎35 調査区北端で見つかった石垣の基底石(根石)を据え付けるためのL字状の溝です。東西方向の

部分は、南側の石垣基礎10とほぼ平行します。検出長は約4.5m、幅約1.2m、深さは約0.7mあります。石垣基礎10と同様の工法が採用され、東西方向の基底石は抜き取られていますが屈曲部の基底石と裏側に充填した礫が残存し、南に面を揃える石垣と西に面を揃える石垣の出隅の基礎部分と考えられます。

通路 石垣基礎35の南側で見つかった通路跡で、石列34・三和土33で構成されます。石列34は北に面を揃え、石垣基礎35との間が通路の三和土33となっています。

3. まとめ

調査では、木幡山城期と指月城期の2時期の遺構を検出しました。このうち、木幡山城期の遺構については、江戸時代に描かれた絵図を参考にすると、浅野但馬守(浅野長晟)の屋敷地と西側の道路とを分ける石垣と道路に開く門と考えられます。

指月城期の石垣基礎については、木幡山城期の石垣に壊されていることや、遺構の方位が異なることから、指月城期に遡る遺構と判断しました。調査地は、北から南へ下がる地形の変化点に位置しており、この地形に即してひな壇造成をするため、石垣が築かれたと考えられます。指月城の北限は、調査地の南側を東西に通る立売通と推定されてきましたが、それより北側に指月城期の遺構がひろがることが明らかとなりました。また、同一面で、木幡山城期と指月城期の石垣に関連する遺構が検出されたのは初めての事であり、伏見城の変遷を考える上で重要な成果となりました。

なお、今回見つかった石垣に関連する遺構の大部分は、地中保存される予定です。



図1 調査位置図 (1 : 10,000) (京都市文化財ボックス第31集『天下人の城』より、一部改変)

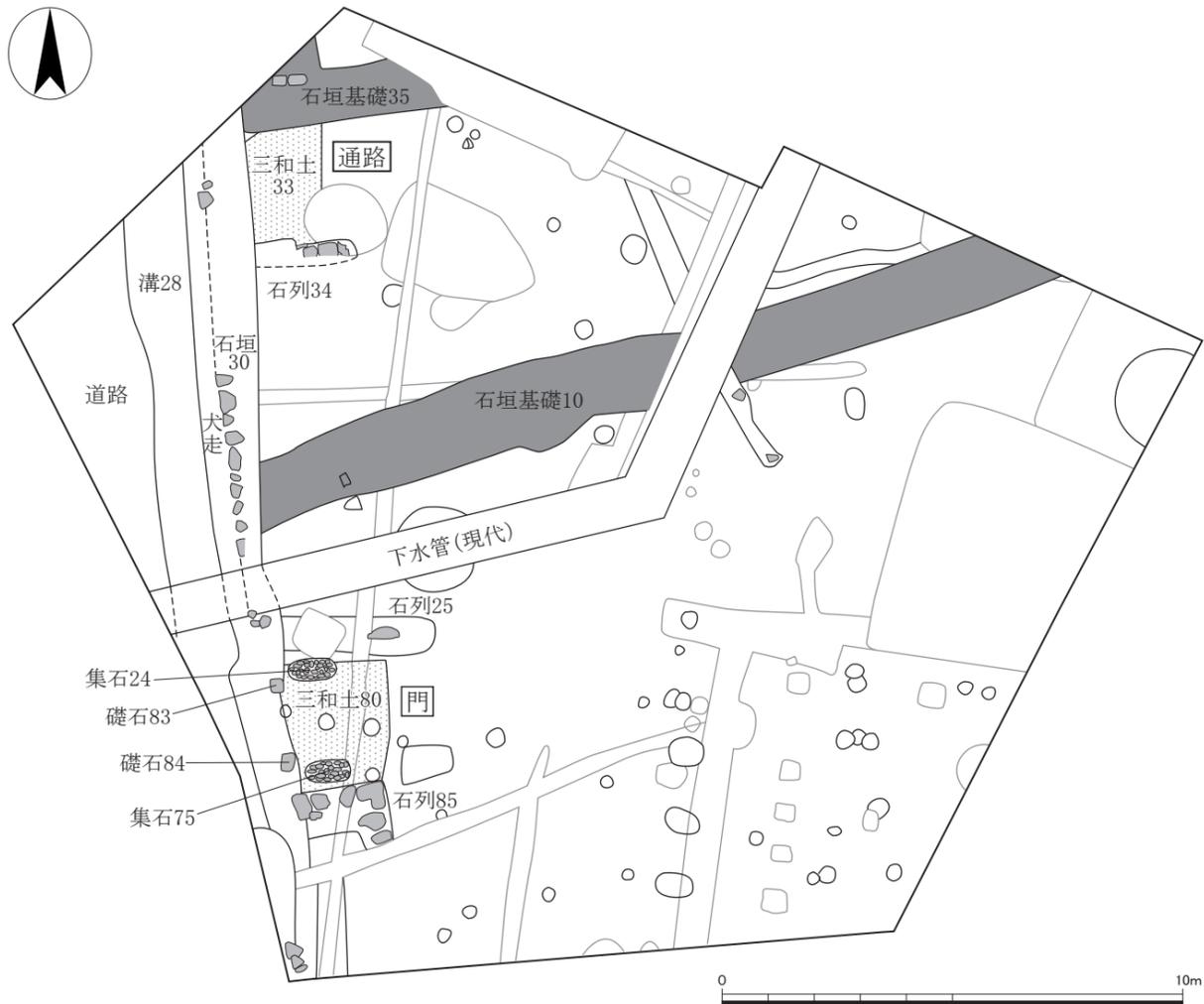


図2 平面図(1:150)

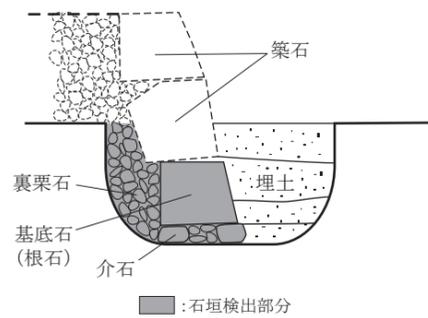


図3 石垣基礎10断面模式図

伏見城関連略年表

年号	西暦	月	出来事
文禄元年	1592	8月	秀吉、伏見指月に隠居屋敷の普請を命じる。
文禄2年	1593	8月	秀頼誕生。
		閏9月	秀吉、伏見屋敷へ正式に移る。
文禄3年	1594	1月	指月の隠居屋敷を本格的な城郭に改める。
		3月	淀城天守と矢倉、指月伏見城へ移築、指月伏見城完成。
文禄4年	1595	8月	聚楽第が破却され、部材を伏見へ運ぶ。
文禄5年 (慶長元年)	1596	閏7月	大地震のため指月伏見城倒壊、木幡山で伏見城再建にかかる。
慶長2年	1597	5月	秀吉、秀頼が大坂城から木幡山伏見城へ移る。
慶長3年	1598	8月	秀吉、木幡山伏見城にて死去。
慶長5年	1600	8月	関ヶ原の戦いの前哨戦、西軍の攻撃により木幡山伏見城陥落。
慶長6年	1601	3月	徳川家康、木幡山伏見城を再建し、入城する。
元和9年	1623	7月	家光、木幡山伏見城で將軍宣下、その後、廢城破却。

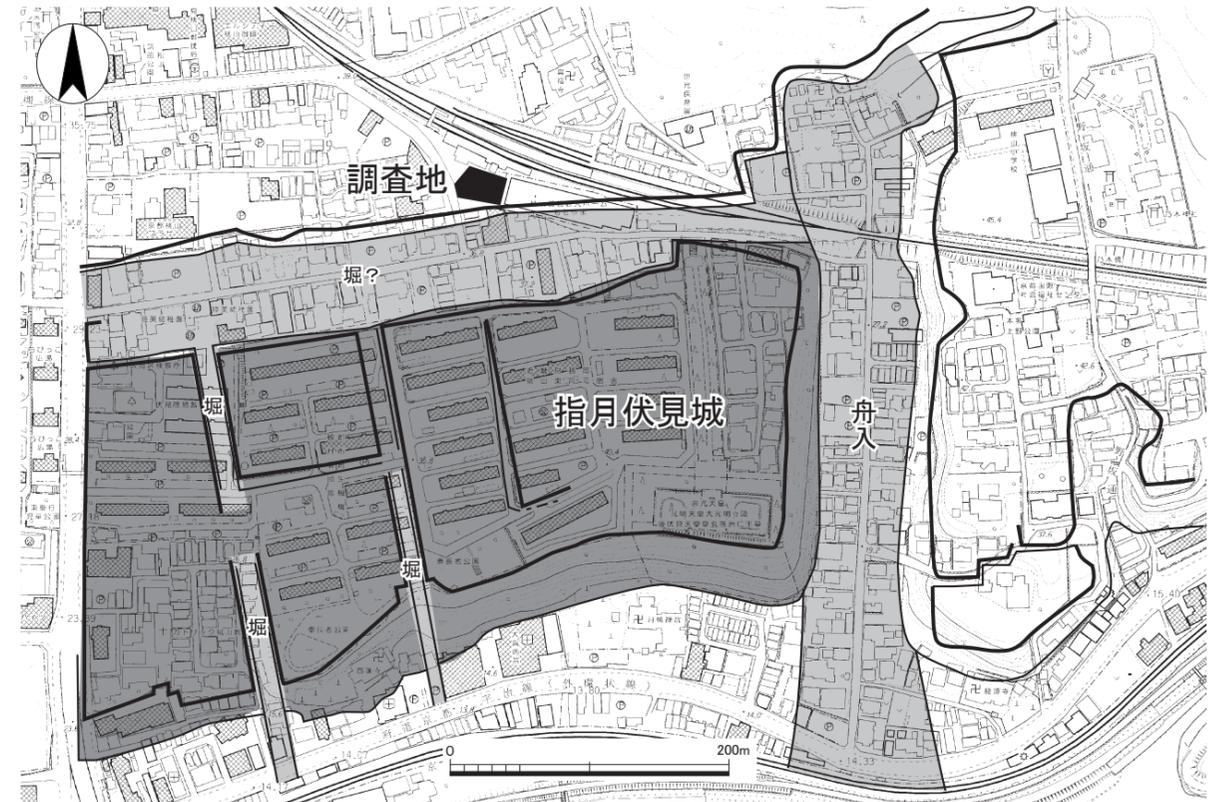


図4 指月伏見城復元案(1:5,000) (京都市文化財ブックス第31集『天下人の城』より、一部改変)



図5 『伏見御城柳井屋敷取之絵図』(部分・木幡山期) (京都市歴史資料館蔵)